

## 私のエスペラント学習法 (31)

### 各地地方会に 所属して

青山 徹 (東京都)

私は1957年、大学に入学後まもなく、いくつかの外国語に興味を持ったが、その中にエスペラントもあった。その後、学内にエスペラント同好会が出来、私も入会した。そのころ使った本は城戸崎益敏著『エスペラント第一歩』、中垣虎児郎著『エスペラントほんやく実験室』、小坂猶二著『エスペラント捷徑』など。私はほとんど部屋で本を読んでいた。この時が一番勉強したときかもしれない。外国語を覚えるには、ある期間は一生懸命にやるのが効率的と言われているので。

その後、社会人になり、63年に、故小原孝夫さんなどと目黒エスペラント会を設立した。後に京都に転勤、地元の京都緑星会に入会した。65年には、東京で世界エスペラント大会が、関西で国際青年大会が開かれ、両方に半分ずつ出席した。

この頃 Prus 著、Kabe 訳の *La Faraono* を読み、その面白さに惹かれた。このように大部の本を読んだのは初めてだった。やはり、興味があるものを読むのが一番だと思う。ただ、仕事が忙しかったので、このころ他にはあまり本は読んでいない。

67年に東京に戻り、目黒エスペラント会に再入会したが、このほかに小沢君枝(マルカリアン君枝)さんらと丸の内で勉強会を始め、かろうじてエスペラントを忘れないようにしていた。68年には JEI の「ほんやくコンクール」に入賞しているので、少しは学力も保たれていたようだ。

74年に大阪に転勤となり、住居地の吹

田エスペラント会に入会。ここに8年間いたが、この頃が一番忙しい頃で、例会に顔を出すのが、年に数回だった。81年に東京に戻り、目黒エスペラント会に再再入会。しかし、89年に目黒から練馬に転居し、それとともに発足まもない練馬エスペラント会に入会。

また、95年頃からコンピュータをはじめたので、当時、廣高正昭、故小野隆夫さんたちが主導した「電単プロジェクト」に参加、毎土曜・日曜は図書館に通い、各種辞典を参照して、辞書作りをした。その後は *Vojaĝo al Esperanto-Lando, La Zamenhof-strato, La Homarano* などのインターネットを使った共同翻訳に参加した。

この頃は勉強と言うより、実践だった。

最近、「中学・高校で英語の会話力向上の授業をしたら、読み・書き・話すのすべてが駄目になった」との話聞くが、エスペラントも同じで、会話のための勉強というのではなくて、「一に心臓、二に心臓、三・四がなくて、五に単語力」というのが会話に関して言われている。ここでいう心臓とは積極的にやってみようという、前向きな姿勢である。最初に文法をみっちりやり、次に本や雑誌をたくさん読んで読解力をつけ、耳を慣らすために Ĉina Radio Internacia などのラジオや CD を聴くのが良いのではないかと思う。私の場合はいずれもちょっと中途半端であるが。

(resumo) Kiam mi estis studento, mi iom diligente lernis nian lingvon. Poste mi transloĝiĝis pro laboro kelkajn fojojn, sed en ĉiu loko mi apartenis al loka grupo. Poste utiligante interreton, mi lernis kaj praktikis komunajn tradukadojn ktp.

(AOYAMA Tooru)